

評価委員会総合評価

研究課題名：沖縄地方の低周波地震の震源決定と発生状況等の調査

評価委員

委員長：竹内義明

委員：高薮出、大野木和敏、石原幸司、前田修平、山田雄二、青梨和正、
鈴木修、石井雅男、橋本徹夫、齋藤誠、行本誠史、丸本大介

評価年月日：令和2年2月17日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、地震観測業務の中で、作業の困難性により、業務化が取り残されてきたものであり、沖縄地域でのゆっくりすべりに関する研究はこれまであまりなされておらず、観測点も少ないなど、地方共同研究としては挑戦的な研究課題である。

本研究により、沖縄地方の低周波地震をデータとして、取り入れることが出来れば、日本の地震カタログをより高水準なものになることが期待される。気象研究所としての技術協力が求められているところであり、地方共同研究として行う意義はある。

一方、沖縄職員の技術向上には資するものの、研究としてのゴールが不明瞭であり、地方担当者がどこまでやることができるかがよく見えない。知見とりまとめ、報告書作成に重心を置く計画にして頂きたい。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・地震中枢（東京、大阪）での将来の業務展開につながるものである。地方担当者の作業負担に留意しつつ着実に進めて頂きたい。
- ・本研究を通して、地方の方が地震波形を解析する力を涵養できるよう、しっかりと指導して欲しい。
- ・既存のプログラムのパラメータ調整だけで上手く研究に適用できるか、やや懸念される。
- ・調査研究の資源が南海トラフや三陸沖に集中する中、この研究を通じて沖縄地方についても調査が進めば、意義は大きい。
- ・気象業務へどのように貢献するのかという観点での検討を行っておくと、気象庁にとってより意義のある研究になると思われる。